

学校教育目標	進んで学ぶ 心豊か たくましく
目指す学校像	互いを認め、個性と良識を磨き合う学校 ～「Well-being (幸せ)を保障する教育」の実現～
重点目標	1 効果的なICT活用及び学校課題研究(小・中一貫教育)を推進による学びに向かう意欲の向上 2 一人ひとりに寄り添った発達支持的生徒指導と支援の充実 3 学校に携わる人々がエージェンシーを発揮した活動の推進 4 健康・安全教育の推進と中長期的な視点に立った教育環境の整備 5 職場におけるWell-being (幸せ)の向上とチャレンジを奨励する組織風土の醸成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価						学校運営協議会による評価	
年度目標						実施日令和8年2月19日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>【学びの質の向上に関する取組】</b> (現状) ○全国学調では実施教科全てにおいて、正答率が全国・県平均を上回り良好な結果である。 ○生徒同士の協働的で、主体的・対話的な深い学びにつなげられる授業の実践に取り組んでいる。 (課題) ○研究領域「学びの連続性を活かした真の学力の育成」について、昨年度の成果・課題を踏まえた、学びの連続性を活かす教育課程の編成・工夫の研究実践と、真の学力の育成	・9年間の学びの連続性を活かした学習指導の充実 ・教員の指導力の向上と授業改善による質の高い学びの充実	①「学びの連続性を活かした真の学力の育成」について関係小学校と連携して研究を進めるとともに、デジタル教科書やICT環境を活用した授業により、生徒の主体的に学び続ける意欲・態度を育成する。 ②教育データに基づく分析・指導を行う。	①学校評価(生徒)の主体的な学習に関する最も肯定的な回答が60%以上となったか。 ②各種調査結果に基づき、生徒自らが自分の学習に関する成果や課題を確認し、今後の学びに活かすことができたか。	①「自分で考えを深める」の生徒A評価63.2%、「話し合い、発表」の生徒A評価58.1%。【100%達成】 ②学力向上ポートフォリオを意識した授業の実施の教職員評価96.8%(うちA評価19.4%)	A	デジタルの利活用に係る教職員評価のA評価が3割に満たないことから、引き続き指導方法の検証や工夫・改善を行い、主体的に学びに向かう意欲・態度の育成を図る。
			①教育データの利活用を図り、授業の検証・改善を行う。 ②小・中での合同研修や授業参観、連携した授業の実践により、9年間を見通したカリキュラム案を作成する。	①各種調査結果に基づき、授業の検証・改善を行うことができたか。 ②9年間を見通して、各教科で「育成したい力」を検討し、小・中連携してカリキュラムマネジメントを行うことができたか。	①各種調査の結果に基づき学力向上ポートフォリオを作成し、年間を通じた検証の実施。【100%達成】 ②合同研修やカリマネデザインマップの作成等を計画的な実施と、特別支援学級や1年特別活動における連携授業の実施。	A	小・中連携に係る取組についてはほぼ計画通りに実施できたが、引き続き、9年間を見通したカリキュラムマネジメントの充実を図る必要があるため、小・中連携の更なる強化に取り組む。
2	<b>【子どもの発達や心のサポートに関する取組】</b> (現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国・県平均を上回った。 ○教員が悩みや相談に親身になって対応してくれると感じている生徒が多い。(90%以上) (課題) ○様々な課題等について、生徒一人ひとりに寄り添った発達支持的な生徒指導や支援の充実	・生徒一人ひとりに寄り添った発達支持的な生徒指導や教育相談の一層の充実	①温かい人的環境や言語環境を整備し、生徒の自己指導能力の育成を支える指導を行う。また、いじめ対策委員会やケース会議など、組織的な支援・指導体制を迅速に構築する。 ②スクールダッシュボード等、生徒の支援において効果的にICTを活用する。 ③スクールカウンセラーをはじめとする専門職や関係機関との連携を強化する。	①生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ②スクールダッシュボードやオンライン授業、個別の教材等による学習が行われ、適切に評価がされている。 ③スクールカウンセラー等の専門職や外部関係機関との連携が図られているか。	①「先生は悩みや相談に親身に対応」の生徒A評価65.3%(肯定的回答96.7%) ②「ICTの活用による学習等の支援」の教職員A評価26.7%(肯定的回答83.4%) ③毎週開催の教育相談部会におけるスクールカウンセラー等との情報交換のほか、関係機関との定期的な情報共有(学期末の会議開催等)を実施した。	B	一人ひとりに寄り添った発達指示的な生徒指導・教育相談の充実に向け、関係機関との連携体制の構築やスピーディーな情報共有は実現できたが、生徒が抱える課題はますます困難化・複雑化している。それらへの対応として、スクールカウンセラーなど専門職との更なる連携強化とデジタルの積極的な活用による学習支援等に取り組む。
			①育成したい子どもの姿、資質・能力について共通理解を図り、学校・家庭・地域それぞれの立場から育成を図る手立てを検討し実施する。 ②コミュニティ・スクールの意義について教職員・家庭・地域が理解を深める。	①さいたま市コミュニティ・スクール成長モデルの活用が図られたか。熟議の結果、具体的行動が行われたか。 ②校内研修や会議等で、教職員・保護者や地域への説明を行い理解が図られたか。	①コミスク成長モデルの活用、具体的な行動を実施した。 ②「教育方針等の説明」の保護者の肯定的評価96.3%、教職員の肯定的評価97.0%	A	ボランティア活動により主体的な社会参画や学校・家庭・地域との連携強化につながったが、持続可能な推進体制の構築が課題である。地域との連携体制の強化に向け校内体制の再構築に取り組む。
3	<b>【地域とともにある学校づくりに関する取組】</b> (現状) ○生徒のボランティア活動により、学校・保護者・地域の協働的な活動が活発化するとともに、生徒の地域活動への参画が図られている。 (課題) ○生徒が地域活動や育成会、社会福祉協会の行事に親しみをもつ機会や、活躍できる場の創出による生徒のエージェンシーの育成	・学校・家庭・地域の連携強化と、協働的な取組の充実 ・積極的な情報発信と、生徒のコミュニティ・スクールへの参画	①学校からの情報発信のほか、関係機関からも学校の情報を積極的に発信してもらうよう働きかける。 ②ランチミーティングなど、生徒がコミュニティ・スクールに参画する場を設定し、生徒の意見を踏まえた活動を実施していく。	①関係機関から、学校やコミュニティ・スクールに関する情報発信がなされたか。 ②コミュニティ・スクールに生徒が参画し意見を表明する機会が創出できたか。生徒の意見を踏まえた取組が実施できたか。	①近隣小学校や自治会・育成会等の関係機関において、内容中生徒ボランティアの募集や成果について情報発信を行った。 ②学校運営協議会(ランチミーティング)における委員と生徒の意見交流を実施した。	A	ボランティア活動により主体的な社会参画や学校・家庭・地域との連携強化につながったが、持続可能な推進体制の構築が課題である。地域との連携体制の強化に向け校内体制の再構築に取り組む。
			①熱中症予防及び生徒の事故やケガを減少させるための指導・管理を実践する。 ②全教育活動を通じた安全指導及び学校保健委員会の充実を図る。	①学校評価(保護者)「安全」の最も肯定的な回答が20%以上となったか ②外部講師を招聘した学校保健委員会の実施等を通じて生徒の健康・安全な生活実践力を高めることができたか。	①「感染症等の安全指導、安心・安全な教育環境の整備」の保護者A評価20.7%【100%達成】 ②市立病院リハビリテーション科理学療法士を招いて開催した。	A	ケガの防止や感染症等の予防に向けた取組の更なる充実が求められる。体力向上のほか生徒の実情に応じた学校保健委員会を実施していく。
4	<b>【教育環境の整備に関する取組】</b> (現状) ○計画的に安全な環境を整備する取組を推進するとともに、交通安全教育の実施やPTAとの協働による下校見守り等に取り組んでいる。 (課題) ○安全点検に基づき、施設修繕等を行っている。 ○今後の改修を見通した、持続可能な教育環境整備、施設管理の実現	・健康・安全教育的と安全管理の推進 ・中長期的な視点を持った施設等への適切な対応	①安全点検の確実な実施及び適切な事後対応を遂行する。 ②管理職、事務職との定期ミーティングによる予算執行管理の徹底と、中長期的な視点を踏まえた施設整備を進める。	①学校評価(保護者)「整備」に関しての肯定的な回答が85%以上となったか。 ②今後の改修を見通し、適切な修繕を行うことができたか。	①「施設・設備」の保護者評価92.9%【109%達成】 ②中長期的な視点を踏まえた修繕計画の作成及び適切な修繕を実施した。	A	安全・安心な教育環境整備に向け、適切な予算執行と計画的な修繕を引き続き行っていく。加えて、安全点検の確実な実施によりケガや事故の防止に努める。
			①学校課題研究に係る校内研修並びに指導力向上に向けて互いに授業を参観し合う機会を設定する。 ②共通理解を図り教職員が丸一となって取り組むための目的の共有と情報の共有を行う。 ③ICTの効果的な活用等による教育活動の実施やデジタルツールの活用等を行う。 ④衛生委員会の実施(月1回)及び在校時間管理の徹底やノー残業に関する取組を実践する。	①学校課題研究の授業の実践、研修を通し、生徒一人ひとりの学習進度や習得状況、興味関心に応じた学びの場や機会の創出ができたか。 ②教職員の研修計画が予定通りに進められたか。 ③教職員の同僚性、協働性を高めることができたか。 ④働き方改革が推進され、時間該当在校時間の減少や負担感の軽減が図られたか。	①「学校課題研究について共通理解を図り実施」の教職員評価90.7% ②「研修時期は適切」の教職員評価90.9% ③「職場環境の向上」の教職員評価73.5% ④「適正な時間外在校時間」の教職員評価48.5% そのほか、教職員ストレスチェック「総合的な健康リスク」の項目は概ね良好な状況であり、本校産業医から、良好な職場環境づくりに向けた指導・助言をいただいた。	B	学校課題研究に向けた研修はほぼ計画通りに実施できているが、教職員の時間外在校時間の縮減や職場環境の改善には引き続き取り組む必要がある。①～④の方策についての検証を行い、より実効性のある方策を企画・検討し取り組んでいく。
5	<b>【教職員のキャリア形成に関する取組】</b> (現状) ○R6学校評価の結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かしたOJTが進められ、よい環境にあることがわかった。 ○学校課題研究を中心に、研修が計画的に行われている。 (課題) ○健康で安心してチャレンジすることができる、職場環境づくり・職場におけるWell-being(幸せ)の向上	・教職員がレジリエンスを発揮し健康で能力を最大限に発揮できる環境づくり	①学校課題研究について共通理解を図り実施する。 ②「研修時期は適切」の教職員評価90.9% ③「職場環境の向上」の教職員評価73.5% ④「適正な時間外在校時間」の教職員評価48.5%	①「学校課題研究について共通理解を図り実施」の教職員評価90.7% ②「研修時期は適切」の教職員評価90.9% ③「職場環境の向上」の教職員評価73.5% ④「適正な時間外在校時間」の教職員評価48.5%	①「学校課題研究について共通理解を図り実施」の教職員評価90.7% ②「研修時期は適切」の教職員評価90.9% ③「職場環境の向上」の教職員評価73.5% ④「適正な時間外在校時間」の教職員評価48.5%	B	時間外在校時間は減らすことはよいことだとは思いますが、学校外でできる仕事を家でやる時間が増えているのであれば意味がないので、時間だけにとらわれないようにしてほしい。 教職員の体調不良者が増えている。子どものいじめアンケートと同様に、教職員の気持ちを吐き出せるものがあつた方がいいのではないかと。

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組